

5.16

■司会 渡邊 秀雄〈熊本県〉 阿蘇教育事務所社会教育主事
山本 福代〈山口県〉 厚狭教育事務所生涯学習ボランティア活動コーディネーター

1. 学校現場における「学社融合・総合的な学習の時間」への段階的取り組み(その2) 9:00~9:25

桑原 広治〈熊本県〉 水俣市立久木野小学校教頭

前任地の人吉市立大畑小学校では、平成9年度から生涯学習の視点で学校・家庭・地域社会の役割を現代的課題に即して分析し、学社融合研究をベースに段階的に取り組んできた。10年度は三者が発想の転換を図ったことで「学社融合・総合的な学習の時間」研究に歩みがみられた。その具体的手法と今後の課題・展望について発表する。

2. 学社融合の取り組み 9:25~9:50

—小・中学校と教育支援ネットワークの連携方法と成果—

黒木 朗次〈宮崎県〉 日向市教育委員会社会教育課係長

平成9~10年度、美々津小学校・美々津中学校が学社融合事業の研究指定を受けて研究を進めてきた。地域の区長会、PTA、高齢者クラブ等の団体が構成された教育ネットワークが支援組織となり、人材の発掘から事業の共催まで一体となって取り組んだ。地域内の社会教育施設や学校、人材を活用した取り組みについて報告する。

～ ティータイム ～

9:50~10:25

3. 学校を基地にしたお父さんのまちづくり 10:25~10:50

—小学校と地域がすすめる教育創造—

岸 裕司〈千葉県〉 習志野市立秋津小学校区秋津コミュニティ会長

秋津地域は若い世帯中心の町。小学校開校当初からボランティア活動が盛んであったが、平成2年度に生涯学習研究指定を受け、「学校と地域社会の交流・連携」教育に一層拍車がかかった。7年に開かれた小学校コミュニティルームは利用者の自主・自律・自己管理で運営、地域の文化センター的役割も担っている。読売教育賞最優秀賞受賞校区。

4. 独自の学社融合プログラム開発と体制整備を目指して 10:50~11:15

—相互理解の過程—

小屋迫厚文〈熊本県〉 蘇陽町教育委員会社会教育課社会教育係長

学校・地域社会が持つ教育機能を相互に理解し、地域独自の事業プログラムを開発しようと、学社融合推進委員会(教育長・教育委員長・社教委委員長他計6名)・研究開発委員会(社教委員・学校生涯学習担当者他計21名)が中心となって、人材バンクを設立し、地域の人材・施設等を活用できる体制整備を進めてきた。

5. 総括討論 11:15~11:40